

Alice kan

5月になると、ぼくがくらす屋久島にアカウミガメが産卵にやってくる。九州の南にある屋久島は、日本でいちばん大きな産卵場所なんだ。

アカウミガメが帰ってくるこの時期は、カメラをかって海岸へ出かけるのが、ぼくの日課になる。

日がしずんだころ、
砂浜にいったみると、
海からのびる線をいくつも見つけた。
その先には……
ウミガメがいた！
おかあさんウミガメが
砂浜のおくを目指して、
はったあとだ。

おかあさんウミガメは
からだが重いからか、
何度も休みながら、
じっくり進んでいる。
産卵するのによい場所を
さがしているんだね。

Alice kan

おかあさんウミガメは、
気に入った場所に落ち着くと、
前あして砂をかきだしはじめた。
自分のからだがかくれるくらいほったら、
こんどは、後ろあしを
かわりばんこに動かして、
おしりの下をさらに深くほっていく。
まるでシャベルのように、
じょうずに砂をすくい上げる。

卵を1000個ぐらい産み終えると、
前あしも後ろあしも使って、
穴をうめもどしはじめた。
20分ぐらいかけて、
ていねいに砂をかぶせつづける。
もう卵の場所はわからない。



Alice kan

じゅうぶん深くほったら、
ピンポン玉ほどの大きさの卵を、
ポトツ、ポトポトツと、2、3個ずつ産み落とす。
おかあさんウミガメは、
ときどき「プフォー」と苦しそうに息をする。
なみだを流しているように見えることもある。
でも、心配はいらない。
これは、からだの中の
いらぬ塩分を出しているところなんだよ。



産卵を終えたおかさんウミガメは、どうしているだろう。
ぼくは、水中カメラを持って、海の中へ。

ウミガメは、陸にいるときは、
まるでちがう生きもののようすばやく、ゆうゆうと泳ぐ。
自由に動ける海では、ずいぶんのびのびしているね。
ぼくもいっしょにのんびり泳ぐ。

Alice kan

ウミガメのあしは、
ひれのような形をしている。
前あしは大きく、羽ばたくようにして水をかく。
後ろあしはかじの役目。方向を変えるんだ。
陸にくらすカメとちがって、
あしや頭は、甲羅の中に引っこめられない。
食べものは、カニやクラゲ、死んだ魚などいろいろだ。
かたい貝も食べるから、あごががっしりしている。